

## 物流研究会

<http://miho.hiroshima-cmt.ac.jp/~NL/topr.html>

### 1. 2008 年度春季研究会

- (1) 日時：平成 20 年 5 月 23 日(金) 9:30~12:00
- (2) 場所：東京海洋大学越中島キャンパス(越中島会館 2F セミナー室(4))
- (3) 講演内容

まず一般講演が行われ、続いて第 8 回目の物流講習会が行われた。

#### 1) 一般講演

「河川を用いたモーダルシフトに関する考察」  
高野智貴(東京海洋大学大学院)  
黒川久幸(東京海洋大学)

河川を用いたモーダルシフトの可能性について、CO<sub>2</sub> 排出量の削減に注目して研究が行われた。陸上トラック輸送から河川の船舶輸送へのシフトを対象として、費用、時間の要素を変化させ、それらのうち、どの要素がモーダルシフトを行うときに重要となるのかが検討された。その検討のために、輸送貨物の品目別、時間価値別に船舶へのシフト量の変化をみるために犠牲量モデルが用いられた。その結果、河川輸送にコンテナを用いる場合は、雑貨貨物のままで河川へのシフトを行うよりも大幅な CO<sub>2</sub> 排出量の削減可能性があることが報告された。さらに、荷役費用の削減、輸送時間の短縮がモーダルシフトに効果的であることも報告された。

#### 2) 第 8 回物流講習会

「海上コンテナ輸送と RFID」

町田秀仁((株)MTI)

近年の物流においては、世界的な最適化分業体制のもと、輸送モード(陸・海・空)を問わず多頻度・小ロット輸送ニーズが高まっている。それには生産から販売まで、ドアからドアまでサプライとデマンドの同期化を実現して無駄を排除し、物流の全体最適を担うサービスを行う必要がある。そこで、求められるものの 1 つに情報通信技術がある。その対象は「貨物」、「輸送部材・輸送機器」、「物流施設」、「行程・作業

内容」、「時間」、「荷主」の 6 つである。それらを効率的に利用するために今注目されているのが、RFID (Radio Frequency Identification) と呼ばれる IC タグを使った技術である。本講習会では、RFID の分類、応用技術、規格問題、企業間の連携などについて、実務者からの立場で大変興味深い内容の講演がなされた。

#### (4) 研究会総会

##### 1) 研究会長の交代

現会長の松尾俊彦氏(東海大学)の任期満了にともない、次期会長の候補者が検討され、永岩健一郎氏(広島商船高専)にお願いすることが承認された。

##### 2) 海洋基本法に関する活動

その法律に関連して、本研究会で何らかの活動ができないか検討された。しかし時間的な制約もあり、よいアイデアが出なかったため後日、機会をあらためて会員に検討してもらうことになった。

##### 3) 編集幹事について

現編集幹事が次期の会長に選出されたため、次期の編集幹事の選出については運営委員会に一任することで承認された。

##### 4) その他

プロジェクト研究および NAVIGATION の執筆テーマに関しては、運営委員会に一任することで承認された。

### 2. 2008 年度春季運営委員会

- (1) 日時：平成 19 年 5 月 23 日(金) 12:00~12:55
- (2) 場所：東京海洋大学越中島キャンパス(越中島会館 2F セミナー室(4))
- (3) 議題

#### 1) プロジェクト研究について

ここ数年間、本研究会の予算(研究会補助金)をプロジェクト研究経費として会員へ配分し、一定の成果が得られた。しかし現在は、新たな

用途を検討する時期にあると考え、来年度は科研費申請を促進するための情報収集のためにこの予算を使用することとし、承認された。

2) NAVIGATION の執筆テーマについて

大まかではあるが「IC タグ」、「港湾」というキーワードで執筆することが承認された。なお、NAVIGATION の発刊頻度は現在、年間 2 回であるが、今後 2 年間で以前の 4 回にもどされることが報告された。

3) 編集幹事の交替について

現編集幹事の永岩健一郎氏(広島商船高専)の後任として、岡山正人氏(広島商船高専)をお願いすることで承認された。

4) 幹事代理について

現幹事の新谷浩一氏(大島商船高専)が本年 10 月より翌年 3 月まで在外研究で不在となるためその間、土井義夫氏(朝日大学)に代行をお願いすることで承認された。

(幹事：新谷浩一)